



認定NPO法人環境ネットワーク埼玉通信



# E・N・S通信

No.34



埼玉県地球温暖化防止活動推進センター

Saitama Center for Climate Change Actions



## Index

表紙寄稿：大原利真氏  
 (埼玉県生物多様性センター所長)  
 環境ネットワーク埼玉より  
 埼玉県地球温暖化防止活動推進  
 センターより  
 推進員活動紹介  
 事務局からのお知らせ



## 埼玉県生物多様性センター～生物多様性保全活動のネットワーク・ハブを目指して～

埼玉県生物多様性センター所長 大原 利真

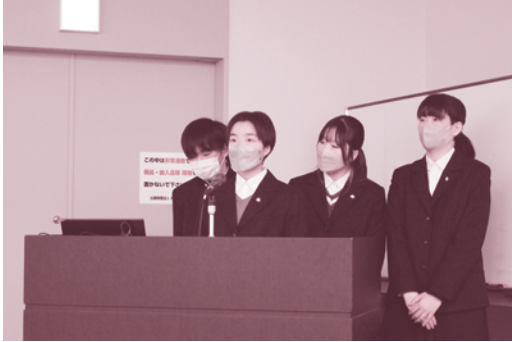
埼玉県生物多様性センターは、生物多様性保全に係わるステークホルダーの連携・情報共有を推進するため、令和4年4月1日、環境科学国際センターに設置されました。埼玉県は首都圏に位置し、県中央部や東部は全国でも都市化の進んだ地域の一つです。一方、県中西部の丘陵地には多くの里地里山が残され、西部の山々には原生的な自然環境もあり、多様な環境の中で多くの生物が生息しています。しかし、近年、里地里山の劣化、外来生物の増加などにより生物多様性は失われつつあります。さらに、気候変動の進行による生態系への影響も懸念されることから、両者の一体的解決に向けた取組が世界的に求められています。本センターは、県民参加型調査等による生物情報の収集・発信、希少野生生物・特定外来生物の実態や対策に係る調査研究、地域保全活動との連携・支援、出前講座や研修による教育・普及啓発など、県民・地域と協働した取組を多面的に進めることによって、「生物多様性保全活動のネットワーク・ハブ」になることを目指しています。さらに、埼玉県気候変動適応センターと連携した活動にも取組む予定です。皆さんと一緒に、豊かな自然環境を守り、「日本一暮らしやすい埼玉」を創っていきましょう。





## 第4回SDGsエコフォーラムin埼玉を開催

2022年12月10日（土）、恒例のSDGsエコフォーラムin埼玉をソニックシティビル（会場）とオンライン併用で開催し、延べ425人の参加を得ました。



基調講演では、前環境事務次官（日本製鉄顧問）の中井徳太郎氏をお招きし、「脱炭素をテコに強靱で持続



可能な地域を目指す～地域循環共生圏（ローカルSDGs）の創造～」と題し、気候変動を取り巻く世界の状況から日本の動向、カーボンニュートラルを実現するためには地域循環共生圏（ローカル

SDGs）との共創が重要であることを解説いただきました。恒例となった学生のSDGsスピーチでは、筑波大学附属坂戸高等学校2年次の学生4人が、エネルギー教育を目的として学生自らが中学生対象に実施したワークショップの概要やその結果について効果検証を含めて発表しました。

午後の分科会では、新たな切り口として「食と農」をテーマとした分科会や、若者による若者だけの分科会を設定するなど、合わせて5分科会において様々な切り口から脱炭素へのアプローチを議論しました。

今回は、開催にあたり多くの団体・個人の方から寄付をいただきました。お礼を申し上げます。

なお開催結果の報告は、当団体のホームページに掲載、及び報告書を作成しています。報告書をご希望の方は事務局までご連絡ください。



## 若者と脱炭素ワークショップを開催

今年度もSDGsエコフォーラムにおいて、次世代を担う若者を対象に脱炭素な社会や暮らしを創造する「若者脱炭素分科会」を事務局主導で立ち上げました。各大学の先生に連絡をし、興味のある学生に集まってもらい、分科会の準備から当日運営までを人材育成プログラムとして位置づけ、脱炭素に関する学習会やワークショップ



等とおして脱炭素へのライフスタイルを考えてもらいました。



当日は学生自ら設定したテーマ（電気自動車・サステナブルファッション・食品ロス・環境教育）で2030年に向けて実行するアクションを調べ発表しました。参加した学生からは、この取組は環境教育そのものだとの発言もあり、今後の展開に期待が持てる結果となりました。



## 脱炭素チャレンジカップ2023が開催されました

一般社団法人地球温暖化防止全国ネットが事務局を務める“脱炭素チャレンジカップ2023”が、2月16日（木）に開催されました。脱炭素チャレンジカップは今回で4回目となっており、地域で脱炭素を目的とした地球温暖化防止に関する活動に対して、書類審査・プレゼンテーション審査を行い、優れた取組を表彰する全国大会です。埼玉県からは今回、来ハトメ工業株式会社がプレゼンテーションに出場しました。環境負荷の大きいアルミのプレス加工を生業とする中小企業として、節約意識の無かった状況からエコアクション21を取得し、社員一丸となり地道な省エネや再エネ電力の導入等で削減努力を続けてきた結果、年間400t以上のCO<sub>2</sub>削減を達成しました。これらの過程・実績が評価され、最高位の環境大臣賞グランプリを受賞されました。

受賞を受けて、代表取締役社長 来昌伸（らいまさのぶ）氏から、「正直驚きしかありませんが、今までコツコツ続けてきた取組を御評価頂けたことは大変嬉しい限りです。弊社の挑戦が他者（社）に波及し、世の中の脱炭素化の流れを加速させることに繋がったらいいなと思っております」とのコメントをいただきました。また、当センターが開催した第1回脱炭素経営セミナーで事例発表をいただいた日崎工業株式会社も環境大臣賞金賞（企業・自治体部門）を受賞されました。今回は、中小事業者からの応募が多く、レベルの高い取り組みが披露され、動きが加速化しているのを実感しました。



大会プレゼンテーションの様子  
写真左から：来昌伸社長、環境管理責任者 石原氏

## 令和4年度彩の国埼玉環境大賞受賞者の決定

彩の国環境大賞は、環境保全などに取り組む個人・団体、SDGsなど環境・社会・経済に統合的に取り組む事業者を表彰し、その功績をたたえるもので、埼玉県・株式会社テレビ埼玉・当センターが主催しています。今年度は約60件の応募の中から受賞者22組が決定し、2月9日に知事公館において表彰式が開催されました。

### 大賞〔県民部門〕：草加商工会議所「コミュニティフリッジによる食品廃棄ロス削減と生活困窮世帯支援の両立」

商工会議所として、平成28年度から地場産業の皮革事業者と連携し駆除した鹿の皮を製品化するなど廃棄ロス削減の取組を開始し、今年度から商工会議所主導によるコミュニティフリッジ（公共冷蔵庫）事業をスタート。廃棄予定となる食品を引き取り、生活困窮世帯などに提供することで食ロスの削減に貢献する取組が評価されました。



### 大賞〔事業者部門〕：株式会社CRS埼玉「自動車破碎残渣減量と地域社会と連携した啓発活動を通じた『循環型社会の形成』への取り組み」

車体バンパーの樹脂チップ化によるリサイクルや、エアバッグ等の生地をバッグとしてアップサイクル製品とするなど、これまでリサイクル困難であった廃棄物の減量・資源の循環に取り組む。例えば、エアバッグ生地を活用した上履き袋を小学校へ寄贈したり、高校デザイン科の生徒がアップサイクルバッグを製作するための生地を提供する等、企業が地域住民と一緒に環境意識の醸成を図っていることが評価されました。



## 中小事業者の省エネ行動や脱炭素経営の支援を行いました

今年度後半も、中小事業者の省エネ支援を、県の“省エネナビゲーター事業”と経産省の補助事業“省エネお助け隊”の事務局として事業者支援を行いました。年度の後半に受診事業者が集中するため大忙しでしたが、省エネナビゲーター事業は年度をとおして58件の支援、省エネお助け隊では、遠く新潟の事業者まで訪問し支援を行うなど活動は広範囲に及び、結果年度をとおし22件の支援を行うことができました。

また、今年度から始まった中小事業者の脱炭素経営支援は、2月に今年度第2回目の脱炭素経営セミナーを開催し、70人ほどの参加者を得ることができました。2回目は、先進的に脱炭素の取り組みを実践されている、横浜市の大川印刷代表取締役社長の大川様に登壇いただき、取組を紹介いただきました。大川印刷では、省エネや太陽光発電の設置、再エネ電気の購入でスコープ1と2は脱炭素を実践しているとのこと、さらに脱炭素を目指し目標に対して計画作りも実践され、中小事業者の脱炭素経営のパイオニアといえる取組内容でした。これから取組もうと思っている又は導入で悩んでいる事業者にとっては、大変参考となるお話だったのではないのでしょうか。

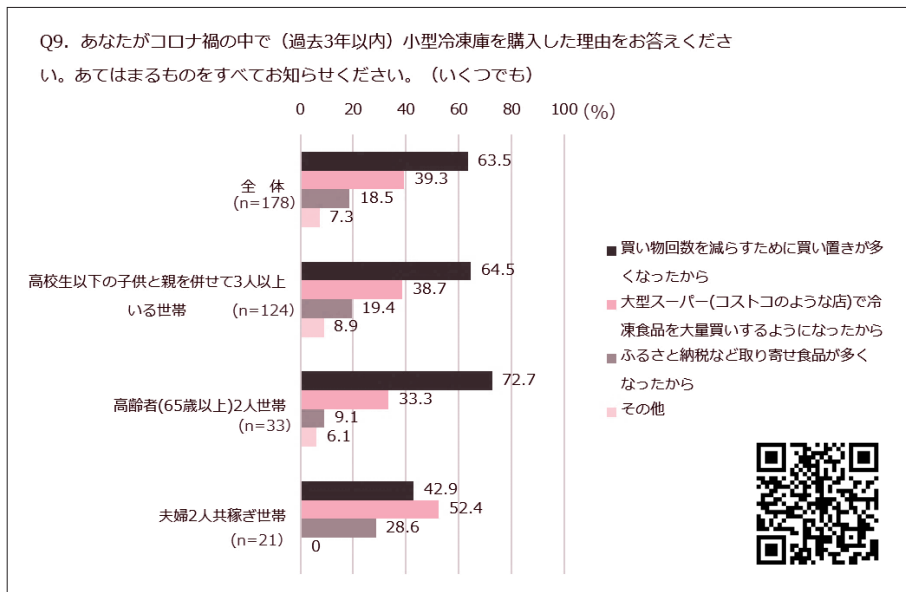


大川社長発表の様子

## 小型冷凍庫導入の実態調査を行いました

最近、長引くコロナ禍によるスゴもり生活や大型スーパーの進出により消費スタイルが変わってきているのか、小型冷凍庫が売れているとのこと。その実態を把握するために、Webを活用した調査を行いましたので、簡単にご報告します。

過去3年以内（コロナ禍）に県内で小型冷凍庫を購入した世帯を3つのカテゴリーに分けスクリーニングし、埼玉県在住の市民合計178人に調査を行いました。スクリーニングの結果①高校生以下の子どもと親を合わせて3人以上いる世帯124人、②高齢者（65歳以上）2人世帯33人、③夫婦（65歳未満）2人共稼ぎ世帯21人から回答を得ることができ、小型冷凍庫を購入した世帯は、ファミリー層が一番多いことが分かりました。



小型冷凍庫を購入した理由は、やはりコロナ禍の中で、買い物回数を減らすために買い置きが多くなったからと答えた世帯が多かったことや、共稼ぎ世帯では、会員制の大型スーパーで買い物をする傾向が分かりました。今回の調査で、食品の購入に関するライフスタイルの変化が見えたような気がしました。

詳しくは、ホームページ (<https://kannet-sai.org/center/survey/files/r4.pdf>) でご覧ください。



## 埼玉県家庭の省エネ相談会を開催

今年度も、埼玉県“家庭の省エネ相談会”が開催され、当センターが事務局を務めました。これまでの書面による相談に加えて、今回は県内の環境イベント等に出展し、推進員の中で研修を受けた省エネ相談員が来場者に対面で省エネのアドバイスを行いました。本事業は、ナッジを活用した省エネ行動等を研究されている糸井川助教（宇都宮大学）のアドバイスの元実施しており、ツールを用いてワークショップを開催するなど、効果的にファミリー層に対して訴求を行うことができました。

結果、607件の相談、1,288人へ省エネの取組紹介を行いました。



食品ロス削減全国大会 in さいたま  
(清水市長に説明する様子)



県庁オープンデー



世界キャラクターさみっと in 羽生



2022 サイクルフェスタ

## 推進員活動紹介



教育関係者等への講演の様子

今回は、高村裕美さんの活動をご紹介します。高村さんは、県内小学校の事務職員として従事される一方で、家庭や子育てに奮闘中のスーパーレディです。時間のなかで、環境問題に関心を持ち、彩の国環境大学を修了されたり、環境カウンセラー登録や環境社会検定に合格されています。

令和2年度からは埼玉県地球温暖化防止活動推進員として活動をスタートし、当団体主催のセミナーや講座にも積極的に参加され、上記省エネ相談員としてイベント等でも活躍されています。また、学校での環境講座や、市町村依頼による環境セミナー等でも講演をされています。お住まいの地域の環境団体や温暖化防止関係の協議会にも参画し、市民への啓

発活動をととして二酸化炭素削減に向けた取組にも携わっています。

推進員活動に参加いただいたことで今後ますますネットワークを広げ、活動が深まることを期待しています。当センターも推進員の皆様の活動をサポートできるよう、引き続き情報提供や支援に努めていきます。



小学校における講演の様子

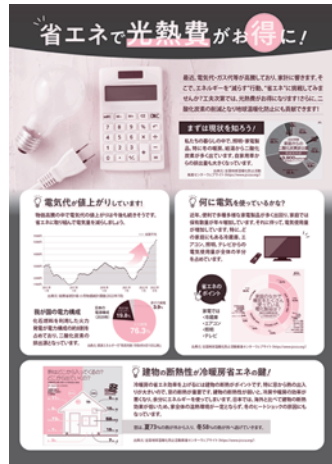




# 事務局からのお知らせ

## 新パネル「省エネ・地球温暖化防止パネル」を作成しました

今年度貸出ツールとして新たにパネルを作成しました。温暖化の現状や2050年カーボンニュートラルに向けたゼロカーボンアクション30、ご家庭で実践できる省エネのポイント等を紹介しています。昨今の電気料金等の値上がりを受けて、省エネの必要性や具体的な取組方法を紹介する内容となっています。アルミフレームのパネルに加えて、持ち運びしやすいタペストリータイプもご用意しました。イベントや講座等でお使いになりたい方は、事務局までお問い合わせください。



### 令和5年度通常総会のお知らせ (予告)

**日時** 2023年6月18日(日)

**場所** ソニックシティ市民ホール第1集会室(401)  
[さいたま市大宮区桜木町1-7-5-4F]

**内容** ①総会記念講演会(予定)  
②通常総会  
講演会はどなたでもご参加いただけます。詳細は、改めてご案内いたします。ぜひご予定ください。

### ●会員・寄付募集

認定NPO法人である当団体へのご寄付及び賛助会費は、税制優遇措置の対象となっています。所得税、法人税、相続税、一部の自治体の住民税において、それぞれ定められた条件を満たすことで優遇対象となります。詳しくは、ホームページをご覧ください。

引き続き、皆様のご支援ご協力をお待ちしています。



今年度も多くの団体や個人の方からご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。

写真左から：  
(一社)埼玉県環境検査研究協会 当団体  
野口代表理事、星野代表理事



### 編集・発行

発行日 2023年3月31日  
埼玉県地球温暖化防止活動推進センター／認定特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉  
埼玉県さいたま市浦和区北浦和5-6-5 埼玉県浦和合同庁舎3階  
TEL: 048-749-1217 FAX: 048-749-1218  
<https://www.kannet-sai.org/index.html>  
閉館日: 土・日、祝日 開館時間: 9時~17時

情報やお知らせ等、是非お寄せください。

